



ふれあい 広場



「雄のオシドリを射止めた猟師が、雌のオシドリの情にうたれ、求喰川に塚をつくって供養した」と伝えられるおしどり塚の物語は、鎌倉時代に宇都宮城主にゆかりのある無住法師によって書かれた「沙石集」にも紹介されているものです。

これを基に、地元の先人たちの努力で、明治27年、物語の旧跡地である一番町のおしどり塚児童公園に碑が建てられました。

毎年秋には、町民で構成された愛護会が、供養を兼ねた「おしどり塚まつり」を開催し、地元の子どもたちに露店やゲームなどで楽しんでもらいながら伝承しています（昭和39年5月28日、市の史跡に指定）。



おしどり塚

一番町 竹石丑松さん

文化財ウォッチング